

# 東建パブリニュース

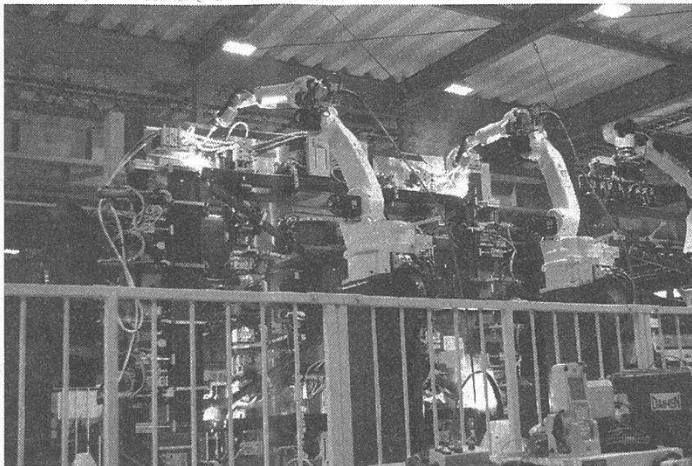
平成30年4月10日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

**掲載** 平成30年3月14日 埼玉新聞 P. 5

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



立体的な3Dラインでロボットが制震フレームを溶接する＝8日午後、ナスラックNK深谷工場（深谷市）の「制震フレーム」新設オートメーションライン

## ナスラック 「制震フレーム」ライン新設 NK深谷工場 全国への供給拠点へ

建築資材や住設機器の製造・販売を行うナスラック（愛知県）が全国に持つ5工場のうちの1つ、NK深谷工場（深谷市）に地震の揺れを吸収する「制震フレーム」を製造するオートメーションラインが新設され、全国への供給拠点として今月1日から本格稼働した。8日に報道陣に公開。揺れを軽減する最新鋭の住宅部材と、その生産ラインが紹介された。（山田浩美）

同工場は、ナスラックの親会社、東建コーポレーション（愛知県）の主力商品の高耐震鉄骨造アパート「シェルシリーズ」に使用される重軽量鉄骨や木質建材などを製造している。今回、同工場の第1工場内に約1億8千万円を投資し、同アパートシリーズに標準配置される独自開発の「制震フレーム」を組立・溶接するオートメーションライン

を新設した。同フレームは西日本向けとして神戸工場でも製造されていたが、今回のオートメーション化で深谷工場に生産を集約し、同工場から全国へ供給される。石川裕巳副工場長は「生産集約により、二重の設備投資を回避。地震の大きな力に対応するもう一つの独自開発部材『高耐力フレーム』

も生産できるラインのため、柔軟な生産体制が可能になる」と自信を見せた。新設ラインには溶接ロボット4台、ハンドリングロボット1台を導入し、作業時間を大幅に短縮。これまで手作業で1日約2枚程度の製造ペースだったが、オートメーション化で年間2400枚（約480棟分に相当）が生産可能となる。部材調整などを監視する視覚カメラも3台搭載したことで、生産性向上とともに品質向上も期待できる。同フレームは2007年から販売しているが、需要は低く、オプション販売が多かった。技術や価格などの見直しを重ね、10年に特許を取得。同フレームと高耐力フレームを併用したアパートは、最高基準の耐震等級3で、震度6程度の揺れを震度4程度に軽減できるという。「同等商品は（業界に）ゼロではないと思うが、等級3はあまりないと思う。現在はシェルシリーズの約8割に標準装備しており、今後受注はさらに増えていくだろう」と石川副工場長は見込む。初年度の18年度は、2000棟分の制震フレーム製造を目指す、生産ラインを軌道に乗せたい考えだ。